

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1190200673		
法人名	株式会社ふれあい広場		
事業所名	ふれあい多居夢川口峯		
所在地	埼玉県川口市峯57-7		
自己評価作成日	令和4年1月9日	評価結果市町村受理日	令和4年4月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター		
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号		
訪問調査日	令和4年3月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・勤続年数が長い職員が多い。 ・職員が各フロアにヘルプで入るシフトを作り、連携が取れてきている。 ・同グループ内で連携、情報共有などができるように取り組んでいる。 ・主治医、訪問看護師との連携がしっかりとれ、随時看取りも行っている。 ・利用者の介護度に関わらず、なるべく本人や家族のしたいよう、本人らしく自由に生活して貰えるよう心がけている。 ・利用者だけでなく、家族やキーパーソン等とも積極的にコミュニケーションを取るよう心がけている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・職員が「和」を大切に明るく入居者に接し、入居者の性格をよく把握したうえでそれぞれに合ったケアが実践されている。更に事業所独自に「職員アンケート」を実施し、職員が日頃から思っていることや仕事への取り組み姿勢などに素直な意見が出され、運営推進会議でも発表され、参加者からの理解も得られている。フロア間の交流が図られ、職員は両フロアの入居者と交流ができ、職員同士の連携も図られ、事業所のサービス向上に繋がられている。 ・運営推進会議は、文書方式で行われ、議事録に対する参加者からの意見やアドバイスが得られ、事業所の運営にも反映されている。 ・目標達成計画については、令和2年度は厚労省通知の要件を満たし、外部評価の実施は緩和されたものの、災害対策において、地域との合同避難訓練の実施に取り組み、大家さんや近隣の工場への話しかけなどが行われ、なお継続して取り組まれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの理念は、各フロア事務所に掲示し、会議時などに確認している。	入居者も職員もお互いのフロアを行き来し、合同でイベントを行うなど、チームワークが図られ、「和」の心を大切にしたい取り組みが行われている。「ケアが業務にならないよう、業務中心のケアはしない」方針が職員間で共有されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスの影響で、地域の交流の場には参加できていないが、町会には継続して参加し、情報交換をしている。	近隣の大家さんとはいつでも相談できる関係が築かれている。お正月には地域伝統の獅子舞やお囃子を披露いただいたり、看護学校の実習生との触れ合いや大家さんの家の庭でミカン狩りや花をいただくなどのつきあいがなされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の集まりなどに参加できていないが、電話や訪問があれば、質問、相談などに対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルスの影響で、現在も紙面で意見や要望等を募り対応している。本年は職員のアンケートも行ってみた。	文書方式で行われ、議事録に対する参加者からの意見やアドバイスが得られている。議事録に「職員アンケート」の結果を掲載し、職員の仕事への日頃の思いを知っていただき、それらへの感想や意見も寄せられ、運営にも反映されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所など各担当への報告、相談はその都度行っている。	市からはコロナ関連の情報がスムーズに伝えられ、ワクチン接種などについてもわかりやすく対応していただいている。また、他市町村からの入居者がおられ、担当の部署との連携も図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内は、オートロックなども無くできる限り自由に行き来できる。身体拘束を行わないよう、主治医、家族と話し合い、職員同士で検討しあっている。	身体拘束廃止委員会の定期的な開催、指針の整備と職員への周知、研修が行われている。また、職員アンケートを通して職員のストレスなどの把握にも努め、拘束や虐待に繋がらないよう配慮されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会主導で、フロアの会議などで話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は関係者等と相談し、不明点などは聞きながら支援している。現場職員に対して制度を学ぶ機会は作っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時などには時間をかけ、説明している。不安や疑問に関しては、電話などでも対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時だけでなく、電話連絡時にも聞くように心掛けている。必要があればこちらから伺う事もある。運営推進会議の議事録を玄関に設置。	入居者からは「イカのお寿司が食べたい」などの要望を聞き取り、誕生会などで実現されている。家族には毎月手紙や写真を送付し、職員の気持ちや考えを伝え、家族からはその感想や激励の意見、アドバイスが得られている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員同士で話しやすい環境作りを心がけている。定期的に各会議にて話し合いを行っている。	社歴の長い職員も新しい職員も上下関係なく意見を言える雰囲気を作られ、職員からは「管理者には意見が言いやすい」、「職員アンケートで自分たちの思いを言うことができる」などの発言があり、現場での話し合いもなされ、ケアの方向性も統一されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が職員から意見を聞き取り、会議などにて報告している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	「ラダー方式」を使用中。職員が、自身の現状把握や目標設定ができるように取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	参加していた川口市グループホーム連絡会は、新型コロナウイルスの影響で、開催できていないが相談等をする事もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実態調査時や契約時にも本人、家族からの希望や要望などを聞くように心がけている。初期のコミュニケーションを円滑にする為のシートも継続して使用している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実態調査、面会時、契約時、電話連絡時などで聞き取りを継続して行っている。必要があれば伺って対応する事もある。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	関係各所と連絡をとり、話し合いながら見極め、対応を行っている。本人の可能な範囲で他サービスも利用している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護施設というよりも共同生活の場と捉え、できる事を見極め、無理なく行ってもらえるような環境作りを心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、写真付きの手紙で本人の様子を伝え、面会が難しい家族には、電話やメールで細かく連絡をとり、共に協力していけるように取り組んでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族とも協力し、できる限り、できる範囲で継続できるように取り組んでいる。	以前入居されていた方の紹介で新しい入居者が入居されるなど、馴染みの人との関係が継続されている。男性入居者がみんなで協力して、壊れたベンチを修理することを企画し、昔からの技術や力を発揮できる場が作られている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症患者という事を常に頭に入れながら、日々よく観察し、一人一人が自然に生活できるように対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了後、ホームから連絡する事は少ないが、連絡、相談に関しては入居時と変わらず対応している。先日、退居した利用者の家族からの紹介で入居になった人がいた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	共同生活という観点上、難しい場合以外は希望、要望を極力聞き、職員や家族で検討し、その時できる対応をしている。	職員は入居者とコミュニケーションをとることを一番に取り組み、思いや意向の把握に繋がれている。テレビを視ながら好きなことなどをお聴きしたり、入居時家族が記入する「発症経過シート」、「バックグラウンドシート」を用いるよう取り組まれている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人の経過や過去の様子がわかるシートをキーパーソンに記入してもらっている。本人、家族からの聞き取りも随時行っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録を元に、職員同士で話し合いを繰り返し、現状の把握に努めている。毎月の会議などで意見を出し合い、検討している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	フロアごとの会議、関係者の意見を取り入れ、ホーム内で検討し、随時見直しをしている。	フロア会議で出された職員の意見をもとに原案を作成し、家族に意見を求めて確認をいただいている。入居者個々のサービス内容を一表にまとめ、実施確認を行うなどケアプランとの一体感も図られている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	細かい記録が必要だが、記録に時間をとれすぎないように、その都度、改良して利用している。職員間の記録も使用し、情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ホームのサービスという考えではなく、個々利用者への個々のサービスと考え、取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルスの影響で、地域行事の参加やホーム行事の招待は行っていない。その人に合った外部サービスは継続している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホーム、主治医、家族と連携できるよう取り組んでいる。主治医から直接、家族に説明してくれる事もある。馴染みの病院がある人は、調整して対応している。	協力医や薬剤師とのつきあいは長く、日常の体調については訪問看護師から医師に伝わり、スムーズな対応が行われている。受診後の医療情報は連絡ノートや医師との連絡ファイルに記載され、職員間に共有されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	主治医の医院からの訪問看護師なので、報告、連絡、相談も細かく迅速に行なっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	なるべく、家族の希望や主治医の紹介の病院で対応しているので、安心しやすい環境ではある。決まった病院ではないので、病院関係者との関係作りは足りていない部分もある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族、主治医、看護師、薬剤師、職員で一つのチームとして検討、対応している。場合によっては主治医からも説明してもらっている。	家族には医師から今後のリスクや予測などの説明が行われ、家族の意向に沿った終末期対応支援がなされている。経験のあるベテラン職員が新人職員にアドバイスをを行い、協力しながら看取りへの対応が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時など全職員が対応できるよう勉強会等を行っている。職員が対応できないような場合には主治医、看護師と連携がとれるよう取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、防災訓練実施している。新型コロナウイルスの影響で、近隣の施設との連携は、様子見。水害に対しても取り組んでいる。	年2回、様々な災害発生を想定した防災訓練が実施されている。ハザードマップの確認も行われ、火災以外に水害対策にも取り組まれ、「避難確保計画」を策定し土嚢の整備や2階への避難方法の確認などに取り組まれている。	近隣との協力体制づくりは防災対策に必要と想定されることから、大家さんや隣接の工場への呼びかけを行うと同時に合同での避難訓練を実施されることに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけが、指示にならないように気を付けて対応している。決まった声掛けではなく、その時のその人に合った声掛けをするよう心掛けている。	それぞれに合わせて名前の呼び方を変えたり、認知症の症状に沿って丁寧に接するなど、一人ひとりを尊重した対応がなされている。「やってみよう、やってみよう」ではなく「一緒に行く」ことを大切に支援が職員間で周知されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	様子観察や声かけを行い、職員同士で情報を共有し、出来る限り本人の希望、要望が実施できるよう対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームのタイムスケジュールで動くのではなく、極力その時の個人のペース、希望で生活が送れるよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節やその人に合った服を、選ぶ人は一緒に選んでもらっている。うまく着られていない人には、声掛けをして一緒に直す。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できる事を細かく見極め、できることは自分で行ってもらっている。時には、郷土食や季節のメニュー、食べたい物なども取り入れている。	柔らかい食事やソフト食、ミサー食など、それぞれに合わせた食事形態で提供され、盛り付けにも工夫が図られている。また、庭でバーベキューをしたりホットケーキを入居者も一緒に手作りするなど食べる楽しみを支援されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録にてタイミング、摂取量を確認している。個人に合わせて時間、種類、量なども検討し対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個人に合わせて対応している。義歯を使用している人は定期的に消毒を行っている。希望の人には訪問歯科も利用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を使用し時間、量の把握を行っている。その人に合わせた排泄ができるよう、声かけ、誘導を行っている。人によってはポータブルトイレも使用している。	定時誘導を中心に、トイレでの排泄を基本とし、夜間のみポータブルトイレを使用される入居者がおられる。トイレ誘導の声掛けは大きな声で行わず、小声で話しかけるなど羞恥心やプライドへの配慮がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表などで確認しながら主治医、薬剤師、職員と相談しながら対応している。薬だけに頼り過ぎないように心がけている。座れる人は極力便器に座ってもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	共同生活なので100%本人の希望通りには行えないが、できる限り本人の意思を尊重しながら対応している。入りたがらない人もいるので、表にて間隔が空きすぎないように注意している。	週2回を目安に入浴支援が行われ、重度化した入居者には職員が2人で介助し、なるべく湯船に浸かれるよう支援されている。自立の入居者には見守りを基本にやれることはやっていただき、足りないところを手助けするよう取り組まれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の様子や状態を見ながら対応している。必要があれば家族、主治医、薬剤師と相談し対応している。昼夜が逆転しないよう、日中の生活の流れにも注意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の事について、副作用などは完全に把握はできていないが、わからない事などは主治医、薬剤師と相談しながら対応している。変化があれば早急に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族や主治医などと相談しながら、できる限り嗜好品なども対応している。できる事、好きな事、得意な事を見つけ出して、極力自分で行ってもらえるよう対応を心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	現在は新型コロナウイルスの影響で、外出が困難になっているが、時々庭や散歩に出るようにしている。必要な通院などは家族、職員と相談しながら、気を付けて対応している。	日常は行動が制限される中、庭に出て外気浴をしたり、近くの大家さんの家にカン狩りに行くなどの支援が行われている。以前は、積極的な外出支援が行われており、コロナが落ち着いたら車でドライブや花見などを行うよう検討されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症の共同生活施設という事もあり、管理が困難なため、原則、金銭管理は、家族、代理人に依頼している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から希望があり、家族から問題が無ければ、できる限り自由に行ってもらえるよう、相談しながら対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	落ち着いて生活できるような雰囲気作り、環境作りを行う。飾り付け、室温調整等で季節感を感じてもらえるような対応をしている。	共用空間の中にそれぞれの居場所が設けられ、窓から外を眺めるのが好きな入居者には、窓のそばに椅子を用意して飲み物を運ぶなどの支援がなされている。フロア間の移動が自由で、他のフロアの入居者との交流も図られ、新たな馴染みが生まれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の関係性をよく観察して、リビングの席を決めている。自室以外でも、本人が過ごしやすい環境作りができるよう、その都度検討、対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使用していた物や使いやすい物を持ってきてもらっている。本人の現状に合わせた環境作り、レイアウトも家族などと相談し対応している。	居室ではラジオや音楽を聴くなど、それぞれが思い思いに過ごせる居室作りへの支援がなされている。居室に籠りっきりにならないようテレビは置かないなど家族と相談しながら決めたり、動線を確認し安全対策にも努められている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その時、その人、そのメンバーの状況に合わせて、可能な限り、安全に自分の力を活かせる生活が送れるような環境作りを心掛けている。		

(別紙4(2))

事業所名: ふれあい多居夢川口峯

作成日: 令和 4年 4月 8日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害発生時は、ホームの職員だけでは対処しきれない場合もある。周囲との連携を強化していく。	近隣の同グループ施設だけではなく、近隣の工場や大家様などとも協力して対処できるよう取り組んでいく。	近隣の工場や大家様には、以前より依頼していたが、再度今後の対応についてなど話し合う。コロナが落ち着いたら、近隣施設との合同訓練も再開していきたい。	12ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。